

2022 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	中嶋 奈津子
研究テーマ	神楽の継承と伝播の研究—なぜ、早池峰神楽は継承できたのか—
研究概要	岩手県花巻市の早池峰神楽（岳神楽・大償神楽）の近現代における継承と伝播の過程を明らかにし、かつ長期に渡り神楽の存続を可能とした伝承システムを解明する。さらに、周辺の神楽と比較することで、岳や大償の神楽を伝播の頂点とする従来の「早池峰神楽」像を再考し、盛岡藩領における早池峰山麓の修験系神楽の広がりを解明する。

1. 研究活動の概要と研究成果	令和4年度は、岳神楽と大償神楽の江戸時代からの霞である大迫町亀ヶ森地区に着目して調査を行ったところ、岳神楽の所属する嶽妙泉寺や、大償神楽の所属する大償神社との関りを示す資料を得ることができた。これを検討したところ、はじめに早池峰山の遥拝所がある地域に岳神楽が伝播し、続いて江戸時代後期から大償神楽の伝播が始まることを明らかにした。
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕</p> <p>①単「大迫町亀ヶ森地区における大償神楽の伝播と伝承経路について」、『東北民俗』第56輯、pp. 81～90、東北民俗の会（2022年6月、査読なし）</p> <p>②単「早池峰岳神楽の廻村巡業から見る神楽の伝播について」、『佛教大学総合研究所紀要』第30号、pp. 21～35、佛教大学総合研究所（2023年3月、査読有）</p> <p>③単「墓獅子の変遷における一考察」、八木透ほか編著『歴史と地域のなかの神楽』法蔵館、（2023年4月）、pp. 223～258</p> <p>〔発表〕</p> <p>①単「早池峰岳神楽の伝播経路について」第74回日本民俗学会年会（2022年10月2日 熊本大学）</p> <p>②単「墓獅子の展開について」東北民俗の会 2022年度12月例会（2022年12月17日 仙台市太田区市民センター）</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	2020年度科学研究費（基盤研究C）「神楽の継承と伝播の研究—なぜ、早池峰神楽は継承できたのか—」（採択期間2020年4月1日～2024年3月31日）
4. 今後の課題	<p>①大償神楽と岳神楽の近現代における担い手についての調査。</p> <p>②岳・大償神楽以外の早池峰山麓の神楽集団の特質の明確化と継承状況の確認。</p>